

地域につながる、「生きる」に寄り添う「広場」のような、場所でありたい。

ポランの広場

Vol.
45

2018年10月1日発行

TAKE FREE

独立行政法人
国立病院機構 花巻病院 [広報誌]

四百余年の伝統
時空を超えた歴史絵巻



ポランの広場

45

2018年10月1日 発行

❖病院理念

当院で一番大切な人は患者さんです。
寄り添い、想像しながら、ともに前に。

❖運営方針

1. 公的病院としての役割を担い、精神医療並び
重症心身障害児（者）医療の向上に努めます。
2. 地域に開かれた病院を目指します。
3. 臨床研究と教育・研修・情報発信に努めます。
4. 個々の職員がその専門性を発揮し、質の高い
チーム医療を目指します。
5. ムリ・ムダ・ムラのない病院経営を目指します。

今回の表紙



花巻まつり

400年以上の伝統を誇る花巻まつりの様子です。
（2018年は9月7～9日に開催）
山車・神輿や鹿踊によるパレードが3日間にわたって繰り上げられます。特に神輿パレードは「神輿を同一会場で一斉に展示した最大数」においてギネス世界記録に認定されるほど規模が大きく、花巻における夏の風物詩となっています。

写真：八木深

2018年9月1日付で副院長として赴任いたしました。前任は、福岡県福岡市にある民間病院の雁の巣病院です。同院の精神科救急（スーパー救急）病棟にて精神科救急を中心とした臨床をしていました。また、精神科救急においても不可欠な治療手段であるmECT（修正型電気けいれん療法）やクロザピンにも取り組み、さらに精神鑑定にも関わっておりました。花巻病院には2011年4月から2013年3月まで第一精神科医長として勤務しておりましたので、約5年半ぶりの復帰となります。2013年1月に八木先生が院長として着任され、八木先生とはほんのわずかの期間のみでしたが一緒に仕事させていただきました。このたび八木先生から温かいお声がけをいただき、赴任させていただくこととなりました。また赴任にあたり齊藤事務部長や大泉前事務部長をはじめ、皆様に御尽力いただきました。この場を借りて御礼申し上げます。前任の雁の巣病院でも医局長として病院管理業務の一部を担ってはおりましたが、副院長としては初めての勤務となり、至らぬ点も数多くあるかと思いますが、皆様のご協力をいただきながら少しでも病院そして地域に貢献できるよう努力していく所存です。

私の専門分野の一つである精神科救急においては、救急医療という観点から迅速かつ適切な医療を提供することが大前提となります。そうした中で無駄のないシステムチックな医療を追求していた時期もありましたが、自分自身の医療に対する姿勢を振り返った時に、人間的な関わりがどのくらいできているのか、という悩みが常にあります。例えば、病状に影響されて興奮状態や混乱状態を呈している方の対応に当たって、安全管理や適切とされる治療を迅速に導入することはもちろん重要ですが、その患者さんが「どうして興奮しているのか」「どうして混乱しているのか」「何がその人の人生に起こっているのか」という点にどこまで目を向けられていたかという反省があります。またその人の正常な反応という部分を切り捨て、病気という点だけで見ていないかという反省も

副院長就任のご挨拶



河上

真人…花巻病院副院長



あります。これは精神鑑定をする中でもたびたび考えさせられる事柄でありました。

そんな中で私は数年前から「オープンダイアログ」に強い関心を抱いております。オープンダイアログとは、フィンランドの西ラップランド地方で発祥した対話を軸とした治療技法であり、治療の思想や医療システムをも含みます。ひとたび精神的な問題が発生すれば、速やかに当事者やその人を取り巻く大切な人々全てとの対話を必要なだけ繰り返し、そこから新しい対話さらには人間関係を生み出していくことを目指します。当事者を抜きにして方針が話されたり決められることは決してなく、予定調和的な話し合いも回避されるなどこれまでの精神科医療とは大きく異なります。そして医療者は自身の専門性を持ちつつもあくまで対等な人間関係の中で、自由かつ安心した対話を行う場を設けることを目指すわけですが、必然的に医療の提供は病院という場所で待つことだけではなく、地域に出ていくことにもなります。

広大な医療圏において限られた医療資源で医療を展開しなくてはならないというフィンランドの西ラップランド地方の医療事情は、当院の医療圏における状況と一部に重なるものがあるかもしれません。また医療観察法病棟などにおいて、従来とは異なるチーム医療を推進してきた当院では、こうした新しい医療を取り入れる素地があるようにも感じています。さらに病院を飛び出して地域での医療という考えは精神科医療において極めて重要な考え方と感じています。

まだ赴任したばかりで手探りの状態ではありますが、オープンダイアログ的な思想も取り入れた新しい地域医療をこの花巻病院で創造できればと考えています。この病院そして地域に関わるみなさんと、医療のこと、生活のこと、さらにはこの地域の未来についてたくさんの対話をしながら、仕事をしていけることを願っています。



今年も白熱！ わかば病棟運動会

6 月24日、わかば病棟一大イベントである運動会が開催されました。当日は夏日の暑さとなりましたが、ご家族（48名）、社会福祉協議会ボランティアの方（5名）、民生委員の方（19名）とたくさんの方に参加いただきました。

最初の競技は、「はやくしないと溶けちゃうよ!」。風船をアイスに見立ててワッフルコーンに入れ、アイスクリームを作ってゴールまで運ぶ競技で、ご家族やボランティアの方と協力しておいしそうなアイスクリームを作った方もいれば、途中でアイスが落ちてしまう方もいましたが、みなさん無事ゴールにたどり着きました。

2競技目は、「すくうのは君だ!!」。大きな金魚を救うため、ボイを使ってプールの中に入れるリレー競技で、最初は赤組がリードしていましたが、白組がじりじりと差をつめ、アンカー勝負で赤組が体1つ分逃げ切り、勝利しました。

ハーフタイムの応援合戦。今年は西城秀樹さんの「ヤングマン」を全員で踊り、ボランティアの方に団長をしていただいたのエール交換!会場の雰囲気は最高潮になりました。

最後の競技は、「紅白大玉リレー」。この時点

写真1:

紅白大玉リレーの様子

紅組このまま逃げ切れー!

で赤組26点、白組15点と僅差。この競技に勝つとボーナスポイント100点が入る為、競技に出ている方も、応援する方も白熱した戦いになりました。両組接戦の末、この競技は白組が勝ちました。

熱戦の後は、全員で毎年恒例の「花巻音頭」を踊り、お互いの健闘をたたえ合いました。

競技の結果、2年連続白組の優勝で幕を閉じましたが、個々に持てる力を出し切っていて、活気のある楽しい運動会になりました。参加いただいたボランティアの伊藤さんは「毎年患者さんと会えるのを楽しみにしている。一緒に楽しい時間を過ごす事が自分の活力になっています。」との感想もいただきました。

今年もご家族、ボランティアの方、スタッフの協力のもと、盛大に開催できたことに感謝いたします。来年もみなさんの素敵な思い出になるような運動会にしたいと思います。



花巻清風支援学校高等部生徒 による七夕飾り贈呈式

小関

敦：療育指導室長

東

北にあって、「七夕」は夏の日を最初に感じさせてくれる行事ではないでしょうか。笹の青味のある薄緑色に、五色の短冊や吹き流しが色を添えると、笹飾りの周辺は初夏の舞台に変わります。最近では、仙台七夕のおかげで、笹飾りの中でも、「吹き流し」が七夕の代表格といえる飾りになっています。その七夕吹き流し、今年は、7月5日に当院の外来棟にお目見えしました。

当院、わかば病棟（重症心身障がい児（者）病棟）の患者さんには、花巻清風支援学校高等部に在籍している方が4名いらっしゃいます。当院の建物内に学校の教室があるので、「病院訪問わかば学級」と呼ばれています。生徒（患者）4名の授業の一環として、今年は吹き流しを製作しました。完成した吹き流しをみて、「いいなー」と私個人として感じていたところ、先方に思いが伝わったのか、頂ける運びとなりました。

7月5日、当院外来棟において、この吹き流しの贈呈式（七夕飾り贈呈式）が行われました。花巻清風支援学校からは、学校長遠藤寿明氏をはじめ担任の先生方、当院からは院長、看護部長、事務部長が参列するなか、代表して2人の生徒が、大きさ1.8mと1.2mの2つの吹き流しを院長に贈呈しました。この様子は、岩手日報（7月7日朝刊に掲載）でも取り上げられました。涼しげな水色の吹き流しは、細長く切った和紙を色づけし、一枚一枚をつなぎ合わせ、2週間かけて作ったものです。和紙への色づけ方につぶさに目をやれば、生徒それぞれの個性が浮かんできます。この吹き流しは、7月末まで外来患者さんや職員の目を楽しませてくれました。花巻清風支援学校高等部生徒のみなさん、先生方、ありがとうございました。

渡邊 憲子…保育士



topics 01

「看護の日」イベントを開催して

✎ 佐藤 良紀：わかば病棟副看護師長

5 月23日に「いわて生協コープ花巻あうる」で「看護の日」のイベントを開催しました。当院では平成21年度より副看護師長会が中心となって「看護の日」のイベントを毎年5月12日の看護の日に合わせて開催しています。

今年度のテーマは、「看護の心、ケアの心を地域住民へ伝える」として、地域の皆様へ精神科看護に関心を持っていただけるように、当院のPRビデオを放映しながらアロマオイルを使用したハンドマッサージを実施しました。来場者は42名で、沢山の方々に体験していただくことができました。体験後の感想では「気持ち良かった」「またハンドマッサージ受たいです。」「病院が身近に感じました。」「今回のイベントで花巻病院を知りました。」など、私たちの活動の励みになる暖かい言葉を頂きました。アロママッサージを通してタッチングし、触れるケアのリラク



当院の副看護師長たちがイベントを盛り上げました

ゼーション効果を体感していただき、「看護の心、ケアの心」を伝えることができたのではないかと思います。

今後も花巻病院の副看護師長として、地域の皆様との交流ができる活動を継続して行っていきたいと思います。



看護師によるハンドマッサージは多くの皆さんに好評をいただきました



札幌で開催されました

topics 02

北海道東北地区国立病院機構・国立療養所看護研究学会に参加して

✎ 伊藤友香里：わかば病棟看護師

6 月30日に第17回北海道東北地区国立病院機構・国立療養所看護研究学会に参加し「重症心身障害者に対する効果的な食事用自助具の検討」について発表してきました。研究内容は、自力摂取は可能であるが摂食行動に問題がある患者さんに対して、自助具を使用することにより、持てる力を引き出し食環境の質の向上を目的とした取り組みでした。個々の特性を活かした環境調整や自助具を工夫することにより、上手く食物を口に運ぶことができ、食べこぼしが減っただけではなく、手掴み、お椀投げ、自傷等の問題行動の減少にも効果が得られました。

質疑応答では、「自助具を工夫したことにより、食環境が良くなったと思いますが、患者さんの反応はどうでしたか?」との質問がありました。それに対して「研究実施前に比べて、食後に食堂から自室への移動がスムーズとなり、食後の自傷等が減ったことから、自力摂取が容易となり、食に対する満足感に繋がったと考えています。」と回答しました。学会での発表は緊張しましたが、とても良い経験になりました。また、



他施設の発表は『夜間覚醒を軽減する関わり』というテーマでの日中の過ごし方改善の取り組みなど、わかば病棟でも参考にさせていただきたいと感じるものがありました。

今回研究に取り組んだことにより、改めて患者さんにとっての食事の意味を考えました。必要な栄養を摂取するだけでなく、長い入院生活での大きな楽しみである食事を、おいしく満足感が得られるものにできるよう、今後も個々に合った支援方法を考えていきたいと思っています。





平成30年度 認知症看護研修を開催して

✎ 工藤 芳子：さくら病棟副看護師長

4月28日、29日に東京医療センターで看護、介護に携わる人を対象に行われたユマニチュード研修入門コースを受講しました。ユマニチュード研修を受講して、認知症患者への特徴を捉えた関わり方の必要性を強く感じました。それをもとに、7月17日に認知症看護院内研修としてユマニチュードの講義と演習を実施しました。

ユマニチュードとは、見る、話す、触れる、立つという4つの柱を基本とし、それぞれの技術を組み合わせ「5つのステップ」を踏みながらケアを行うことにより、相手に「あなたは大切な存在である」というメッセージを相手が理解できる形で伝える技術です。

参加した研修生からは「自分自身の関わりを見直



ユマニチュードの「見る」技術を体験。意識的に視線をつかまえず近づきます。横や上からは見えません。正面なら見えることを実感(*^_^*)。

す機会となり、今後ユマニチュードの技術を意識して取り組んでいきたい」との感想がありました。ユマニチュードの技術は誰でも出来る技術です。各病棟ではユマニチュード技術を取り入れケアに繋がっています。

中学生職場体験学習を実施して

✎ 千葉真由美：みずき病棟副看護師長

7月5、6日の2日間にわたり、花巻北中学校の生徒さんによる職場体験学習がありました。各職場の協力のもと、病院で働くスタッフの仕事が見学・体験できる貴重な機会となりました。

参加者6名はみんな医療職場に興味・関心を寄せており、医師・看護師になりたいという学生もいました。初めは緊張していましたが、病院で働く多くの職業を知り、普段は体験できない薬剤の分包（マーブルチョコを代用）、患者さんと一緒に作品づくりへの参加、入院中の患者さんの診察を見学、手浴・足浴の

実践と楽しそうに体験していました。記念撮影では白衣に着替えてもらいました。恥ずかしそうにしながら嬉しそうに白衣に袖を通していたのが印象的でした。

後日、お礼状が届きました。スタッフが笑顔で患者さんに関わる姿が印象的だったこと、患者さんに「ありがとう」と言われ看護師がやりがいを感じる時を身を持って体験でき嬉しかったとの内容でした。まだ先の事ですが、一緒に働ける日を楽しみにしたいと思います。



摂食嚥下に関する各種研修会に参加して

✎ 阿部 芳美：作業療法士

6月10日に「認知症高齢者の摂食嚥下リハビリテーション」、7月7日に「わかりやすい嚥下障害の基礎知識－口から食べることを学ぶ－」という研修会に参加してきました。

講師は大阪大学の野原幹司先生と東京医科歯科



大学の戸原玄先生でした。研修タイトルの通り、分かりやすくとても楽しい、実習も経験できる実践的な研修会でした

認知症のタイプを知ることで、食べないという状況への対応や工夫が異なることを理解し、嚥下障害への知識を持つことで、本人の様子から評価して取り組める工夫がさまざまあることが分かり、今後の可能性を実感することができました。

また、嚥下の仕組みを知り、どの時期でつまづいているのかを評価できる事で、行える対応や工夫があることが分かりました。

適切な評価の視点を得て、「食べない・肺炎→点滴→拘束が必要→身体機能の低下」という流れを多職種で関わり一緒に変えていけるよう、今後も自己研鑽を積み、得た知識の共有を図っていきたいと思います。

平成30年度 認知症疾患医療センター 第1回研修会

✎ 藤村 茂行：医療社会事業専門員

7月18日に今年度第1回目の認知症疾患医療センター研修会を開催しました。今回は、「家族とスムーズに連絡が取れない独居高齢者の支援」をテーマにグループワーク形式で事例検討を行いました。医療・介護関係者の皆様におかれましては、“やりがいのある支援”として共感の多いケースだったと思います。また、他職種・他機関の角度の違う視点から多くの気づきが得られたと思います。

昨今、2025年問題が騒がれ、今回取り上げたケースと同様のケースが増えていくと思われます。厚生労働省によれば、2025年には、認知症高齢者数は462万人に上り、単独世帯、夫婦のみの世帯が増

加していくとのことです。私たちは、このような状況に直面しておりますが、今回のような研修を通して、将来に向け皆様と切磋琢磨できればと思います。今後ともよろしくお願いいたします。



グループワークの様子。介護支援専門員、社会福祉士、薬剤師等、様々な職種で支援方針について話し合っています。

新たな仲間を よろしくお願いします！

平成30年7月 異動者・採用者

今 回、新たな仲間になった2名。不安と期待を持って日々業務に励んでいる事と思います。新採用者を温かくご指導よろしくお願いします。

①出身地 ②趣味 ③抱負



看護師(みずき病棟)
伊藤 花菜

- ① 岩手県宮古市
- ② 旅行

③ 精神科での勤務は初めてで、分からないことや不安もありますが頑張りたいと思います。よろしくお願いします。



事務助手
田村 修子

- ① 岩手県北上市
- ② ガーデニング

③ 7月からお仕事をさせていただいています。不安な時も病棟の方々が声をかけてくださり、安心して業務を行うことができ、日々たくさんのことを学ばせていただいています。

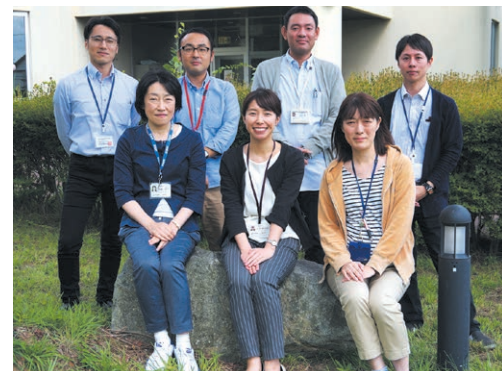


花巻病院で活躍する自慢のスタッフです！

精神科専門領域で活躍 心理療法室！！

✎ 山村 卓：主任心理療法士

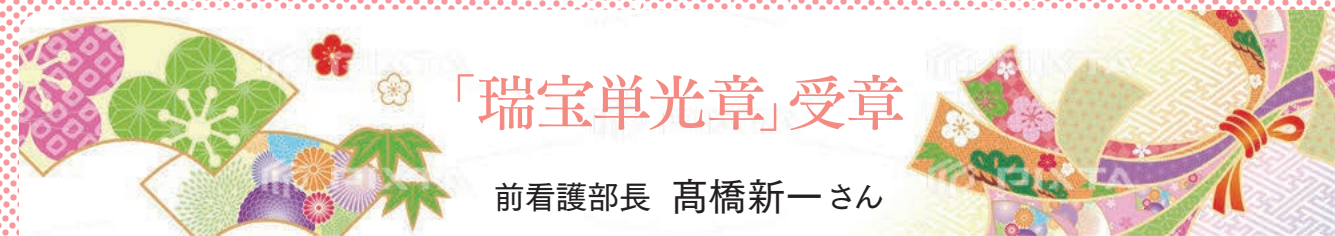
当 院には7名の心理療法士が在籍しており、外来やデイケア、そして各病棟で業務に当たっています。心理療法士は、さまざまな心理検査をはじめとする心理アセスメント、心理面接（カウンセリング）、また心理教育やARP（アルコールリハビリテーションプログラム）、SST（社会生活技能訓練）、当事者研究など集団での治療プログラムも担当しています。



当院心理療法室の特色としては、他の職種との連携を密にして治療に当たっていることが挙げられます。治療プログラムも心理療法士だけではなく、他の職種と一緒にしているものが数多くあります。多職種の中で活動するにあたっては、心理療法士ならではの視点を持ちながらも、多様なニーズに応えられる幅広い視点を持つよう努めています。

ところで、これまで我が国では心理職の国家資格がありませんでしたが、平成27年に「公認心理師法」が成立しました。平成30年度には第1回の試験が実施され、心理に関する支援を行う国家資格として「公認心理師」が誕生します。私たちが気持ちを新たに当院での業務に取り組んでいきたいと思っています。

掲 示 板



前看護部長 高橋新一さん

✎ 雫石 哲也：庶務係長

平成30年春の叙勲において、前看護部長の高橋新一さん（写真左から2番目）が瑞宝単光章を受章されました。

高橋さんは30年の長きにわたり、国立病院機構の看護職員としてご尽力された方で、花巻病院においては、平成27、28年度において看護部長として活躍されました。在職中は看護部門の教育体制充実に寄与されたほか、診療部、事務部など他部門とのコミュニケーションも大事にしながら病院の運営に貢献されていました。

受章後5月15日にはあいさつに来院され、叙勲伝達式の様子などをお聞かせいただきました。今回の受章について高橋さんは「このような名誉を賜ることができたのは、自分の力だけではなく、一緒に働いてきた多くの仲間のおかげです。」と語られていました。

退職されてからも、調和を大事にされる高橋さんらしさが感じられる話しぶりでした。高橋新一さん、この度の受章におかれましては誠にありがとうございました。



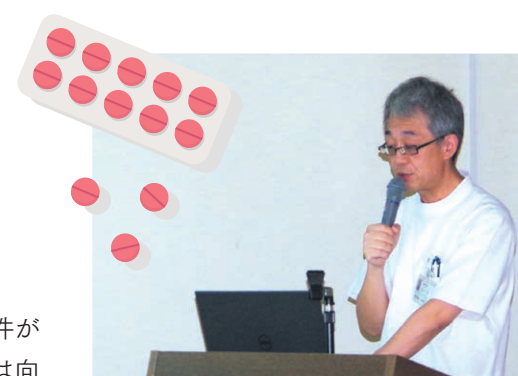
●薬剤師さんのお薬相談室

睡眠薬を他人へ譲って逮捕される？… 知らない怖い向精神薬

✎ 及川 慎一：薬剤科長

数年前に睡眠薬を譲渡した警官が逮捕されるという事件がありました。当院で処方される睡眠薬などの治療薬の多くは向精神薬と呼ばれ、使用や取り扱いについて規制されています。

向精神薬とは中枢神経に作用して精神機能、主に心の働きに影響を及ぼす薬物の総称で、抗精神病薬、抗うつ薬、抗不安薬、睡眠薬などが該当します。医師から処方された薬は処方された患者さんの治療だけに使用されます。処方された薬は医師が、患者さんのそれぞれの症状にあわせて薬を選んでいきます。あなたに処方された薬は、あなただけの薬です。他人へ譲渡することや他人に使用することは厳禁です。特に睡眠薬など向精神薬の規制を受けている薬を他人へ譲渡したり、他人へ使用したりすると麻薬及び向精神薬取締法違反で刑罰を受ける可能性もあります。処方された薬は用法用量を指示された通りに服用・使用してください。





精神科専門療法のご案内

01 精神科デイケアについて

当院では、精神疾患の受療中で、比較的通院・服薬ができて
いる方や、主治医がデイケア利用の必要性を認めている方を対象に
精神科デイケアを開設しています。開所日は平日の9時30分から15時30分まで
の1日利用制となっており、専属の心理療法士、看護師を配置しています。

デイケアでは、社会参加コースとして、主として集団活動を通じて集中力を向上
させ、他人との適切な距離の取り方や疾病との付き合い方を学ぶ各種プログラム
を実施しています。また、就労支援コースとして「仕事ミーティング」を実施してお
り、近隣の作業所やハローワークに赴き、復職への準備を行うなどのリワークプロ
グラムも実施しています。



02 精神科作業療法について

当院では、作業療法士を複数名配置しており、精神疾患等を
有する方の日常生活或いは諸活動をサポートすることで回復させ
る治療を行っています。「作業療法（OT）」は多岐にわたります。日常生活に特化
したものから、対人コミュニケーション、社会復帰、対象者に合わせて種々のプ
ログラムを実践します。主なプログラム内容として、手工芸、ゲーム、歌（カラオ
ケ）、スポーツ、病棟OTでは調理・外出訓練を実施しています。生活技能訓練
（sst）を使ったコミュニケーション訓練も実施しています。



03 精神科訪問看護について

当院では、専門スタッフ（看護師・精神保健福祉士）が精神
疾患をお持ちの方や、心のケアが必要とされている方々を対象に、
直接ご自宅や入所施設にお伺いし、生活上の相談をお受けしたり、助言・援助
などのトータルサポートを包括的に実施しています。病気の不安や、生活の不安、
人間関係の不安や、ひいては就労の不安など、精神疾患をお持ちの方の苦悩に
対して専門スタッフがきめ細かなケアやサービスを通して包括的に支援します。



外来診療について

- 外来受診は、予約制となります。
- 新患予約受付については、地域支援室（内線520）までご連絡願います。
- [受付期間] 平日（土・日・祝日・12/29～1/3を除く）9:00～17:00
- 予約後の日時変更については、平日15:00～16:00にご連絡願います。

編集後記

「瞬間に永遠をみる」などの瞬間と永遠を巡るフレーズは、今では若いアーチ
ストの歌詞にも溢れんばかり浮遊しているが、年を重ねるとそれが体感できにく
くなっている。小学生の頃、田んぼでいなごを手づかみした瞬間は今でも鮮明に残
っているが、40歳を過ぎた頃からの出来事については、「瞬間」の鮮度がかなり下
がっている。諦めが先行するのか、道すがら、夕方の稲の海原とコンパインの風景
を心に封じる努力もなく、期待するのは新米の味になっている。【広報委員・K】



独立行政法人
国立病院機構

花巻病院

発行責任者／院長 八木深

〒025-0033 岩手県花巻市諏訪500番地
tel.0198-24-0511 fax.0198-24-1721
<http://www.nho-hanamaki.jp/>

